

桂坂だより 特別号

令和7年3月19日（水）
京都市立桂坂小学校
校長 中村 佳明

お忙しい中、学校評価のためのアンケートにご協力いただきありがとうございます。このアンケートは、子どもたち一人一人や保護者の皆様、地域の方々の声を大切にすると共に、そこから見えてきた桂坂小学校の強みや課題を共通認識した上で、連携して取組をすすめ、子どもたちの学校生活をよりよいものにすることをめざしています。

学校評価のためのアンケート結果の考察【後期】

秋の落とし物パーティー



黒板に考えたことを共有



「お子様を安心して学校に送り出すことができますか」という質問項目に対して、「できている」と回答した割合が前期の60%に対から、後期には67%に増加しました。（「おおむねできている」も合わせると、前期96%、後期97%となりました）

学校で安心して過ごせるということは、「めざす学校像」が具現化に向かっていているということですから、この結果を非常に嬉しく思います。

「できている」が7%増えたのには、以下の点が考えられます。

- ・「授業中の対話を通して、教室での良好な人間関係が築かれたこと」
- ・「たてわり活動を通して、異学年間での関係性がつくれたこと」

これらの要因に加えて、保護者の皆様のご家庭での温かいサポートがあったからこそ1年間を通して安心して学校に通える児童が増えたことだと思います。ありがとうございました。

「お子様は、自主的に家庭学習に取り組むことができますか」という質問項目に対して、「できている」「おおむねできている」を合わせると83%でした。8割の子どもたちが自主的に家庭学習に取り組んでいるということですが、裏を返せば、残りの2割の子どもたちはまだ不十分ということです。

どうすればよいのか困っている子や自分にとって必要な学習を捉えられていない子もいると思われます。来年度は、自主的に学習する力を育てるための時間を毎日の校時の中に設けます。

なお、学級会で決まった「遊び」を計画的に準備するのは、とても嬉しかったです。来年度以降は、学級会をより大切に、合意形成の経験を増やしていきたいと考えています。

英語でお店屋さん



企画した遊びを準備中



【現状を踏まえて】

今年度、子どもたちにつけたい資質・能力として桂坂IDR（探究力、対話力、レジリエンス）を掲げてきました。子どもたちが安心して学校で過ごせることに関しては、D（対話力）やR（レジリエンス）が大いに関係しています。

自分の考えを述べた際に、否定されず受け入れてもらえるようなクラスだとしたら、安心して考えを述べることができます。また、レジリエンス（粘り強さ）があれば、多少の困難があったとしても、くじけずに取り組むことができるでしょう。次年度は、さらに子どもたちに「身に付けたい力」を自分ごととしてとらえられるよう指導の在り方を工夫していきます。

生活面

学習面



【現状を踏まえて】

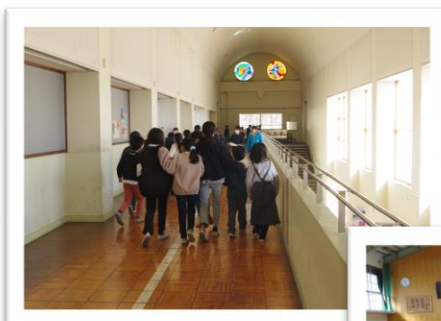
「自主的に学習に取り組む」ことを大切にするために、従来の学習スタイルを大切にしつつも、新しい授業スタイルも取り入れていくことを考えています。

一斉授業であっても、はじめから終わりまで、全員が同じことを同じように取り組む学習法は見直していくことも必要です。

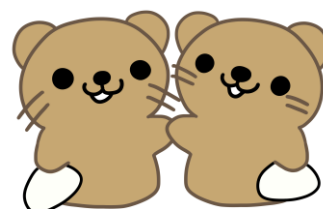
学習でも「子どもをスーパーヒーローにする」、それが本校の理念です。学習意欲を高め、前のめりになって取り組む時間を増やせるようにしていきます。

充実していた「たてわり活動」

5、6年生が
率先してグループ
活動を進めています



②集大成のかざらっこパーク



①たてわり「遊び」「給食」で日ごろの関係づくり



これまでの感謝の
気持ちをこめて
歌やダンスの贈り物

③感動と感謝の6年生を送る会

今年度、たてわり活動に力を入れて教育活動を進めてきました。日ごろのたてわり遊びや給食では、異学年で協力して活動することを通して、リーダーシップや協調性が育まれました。特に、今年度の集大成とも言える「かざらっこパーク」では、6年生が1～5年生を楽しませようとして遊びを工夫して準備してくれたことや、5年生が下級生をサポートする姿が多く見られ、頼もしさを感じました。

6年生を送る会では、卒業を迎える6年生に歌やダンスで感謝の気持ちを伝えることができました。下級生からのメッセージやパフォーマンスは、6年生にとって心温まるものとなり、中には少し涙ぐむ姿もありました。

来年度も子どもたちがさらに成長できるように、たてわり活動を充実させていきます。

【学校運営協議会 理事会】

理事の皆様からご意見をいただきました。

- 学力向上だけでなく、人を大切にするなどの「人を育てる」ことに力を入れていただき、ありがたい。
- 放課後学び教室では、落ち着いて学習を進めている様子が見られた。
- 子どもたちが安心して学校にいられているから心理的安全性が高いとは限らない。真に心理的安全性が高い学級なら、「失敗を恐れない」「とことん挑戦する」、そんな環境を目指してほしい！



【ご意見を受けて】

今年度、子どもたちは落ち着いて学習している様子が見られました。ただし、学校教育目標の文言にある「すすんで」の部分は、まだまだ子どもたちの力を伸ばせる余地があると感じています。

次年度は、「たてわり活動の充実」や「自分で考えて学ぶ時間の創設」を通じて、こどもたちの主体性をさらに伸ばしていきたいと考えています。これは、まさに運営協議会で出していた「人を育てる」に合致するものでもあります。